



Aluminum lightens the world

アルミでかなえる、軽やかな世界

2023年度 第3四半期 決算説明会資料

2024年2月8日
株式会社UACJ



3Qも事業利益*¹は前年同期*²を上回って着地
販売数量見通しの増加と製造コスト削減施策の結実により、**事業利益見通しを上方修正**

■ 3Q累計総括 事業利益 333億円（前年同期比 +144億円）

- 1
- ✓ 国内：エネルギー・添加金属高騰分を製品価格に反映するサーチャージ制価格体系導入効果に加え、構造改革効果の継続によって利益を確保でき、事業環境が厳しい中でも増益
 - ✓ 海外：TAA*³の収益拡大とUWH*⁴の収益改善により、増益

■ 通期業績見通し 事業利益 400億円（上方修正 +20億円）

- 2
- ✓ 事業環境が期初想定より厳しい中での着実な事業進捗およびTAAの販売数量見通しの増加、各製造所における製造コスト削減施策の結実により、**通期の事業利益を400億円に上方修正**

*1 事業利益 持続的な事業活動の成果。営業利益から、棚卸資産影響、一時的・特殊な重要性のある損益を控除したもの

*2 2022年度3Q累計のIFRS実績値は概算値であり、今後の四半期レビューの結果により変更する可能性があります

*3 TAA : Tri-Arrows Aluminum Inc. *4 UWH : UACJ Automotive Whitehall Industries, Inc.

1. 2023年度 第3四半期業績

2. 2023年度 業績見通し

3. 企業価値向上に向けた 資本効率経営の取り組み

4. サステナビリティへの取り組み

5. ご参考データ

1. 2023年度 第3四半期業績



業績 サマリー

事業利益 333億円 (前年同期*1比 +144億円)

営業利益 222億円 (前年同期比 +112億円)

数量：877千トン 前年同期*2比 △136千トン

- 缶材：北米における在庫調整の影響で販売量が減少するも、在庫調整の影響は底打ちのきざし
- 自動車関連：生産の回復に伴い、着実な販売が継続
- 厚板：半導体製造装置向け厚板の在庫調整局面の影響を受ける

事業利益：前年同期比 +144億円

◎増益要因

- 国内事業の損益好転
(製造コスト改善、価格改定効果、エネルギー価格、添加金属等の高騰分価格転嫁 等)
- TAAの増益
(品種構成の良化、エネルギー価格・添加金属等の高騰分価格転嫁 等)
- UWHの収益改善

△減益要因

- UATH*3の業績悪化
(北米・東南アジア缶材需要の一時的な鈍化による販売量減少)

*1 2022年度3Q累計のIFRS実績値は概算値であり、今後の四半期レビューの結果により変更する可能性があります

*2 会計期間の変更に伴い、実績値を組み換えています

*3 UATH：UACJ (Thailand) Co., Ltd.,

第3四半期 業績

(単位:億円)

	2022年度 3Q累計*1 (A)	2023年度 3Q累計 (B)	増減 (B) - (A)
売上収益	7,408	6,603	△ 805
事業利益	189	333	144
棚卸資産影響等	△ 79	△ 111	△ 32
営業利益	110	222	112
親会社の所有者に 帰属する当期利益	24	68	44
事業利益をベースとした 1株あたり当期利益 (円/株)	159	294	135
Adjusted EBITDA*2	449	605	156

*1 2022年度3Q累計のIFRS実績値は概算値であり、今後の四半期レビューの結果により変更する可能性があります
国際会計基準(IFRS)の適用にあわせ、UATHを含む一部グループ会社の会計期間を12月決算から3月決算に変更しております

*2 Adjusted EBITDA: EBITDA - 棚卸資産影響等

セグメント別 売上収益・営業利益

(単位:億円)

	2022年度 3Q累計* (A)		2023年度 3Q累計 (B)		増減 (B) - (A)	
	売上収益	営業利益	売上収益	営業利益	売上収益	営業利益
アルミ圧延品	6,526	144	5,696	271	△ 830	127
加工品・関連事業	1,556	13	1,579	35	23	22
(調整額)	△ 675	△ 47	△ 673	△ 85	2	△ 38
合計	7,408	110	6,603	222	△ 805	112

* 2022年度3Q累計のIFRS実績値は概算値であり、今後の四半期レビューの結果により変更する可能性があります

アルミ板 品種別売上数量

(単位:千トン)

品 種	2022年度 3Q累計*1 (A)	2023年度 3Q累計 (B)	増 減 (B) - (A)
缶 材*2	666	576	△ 90
箔 地	35	34	△ 1
I T 材	5	6	1
自動車材	91	107	16
厚 板	41	24	△ 17
その他一般材	174	130	△ 44
合 計	1,013	877	△ 136
	国内市場向け 357 海外市場向け 656	国内市場向け 355 海外市場向け 522	国内市場向け △ 2 海外市場向け △ 134

*1 会計期間の変更に伴い、実績値を組み換えています

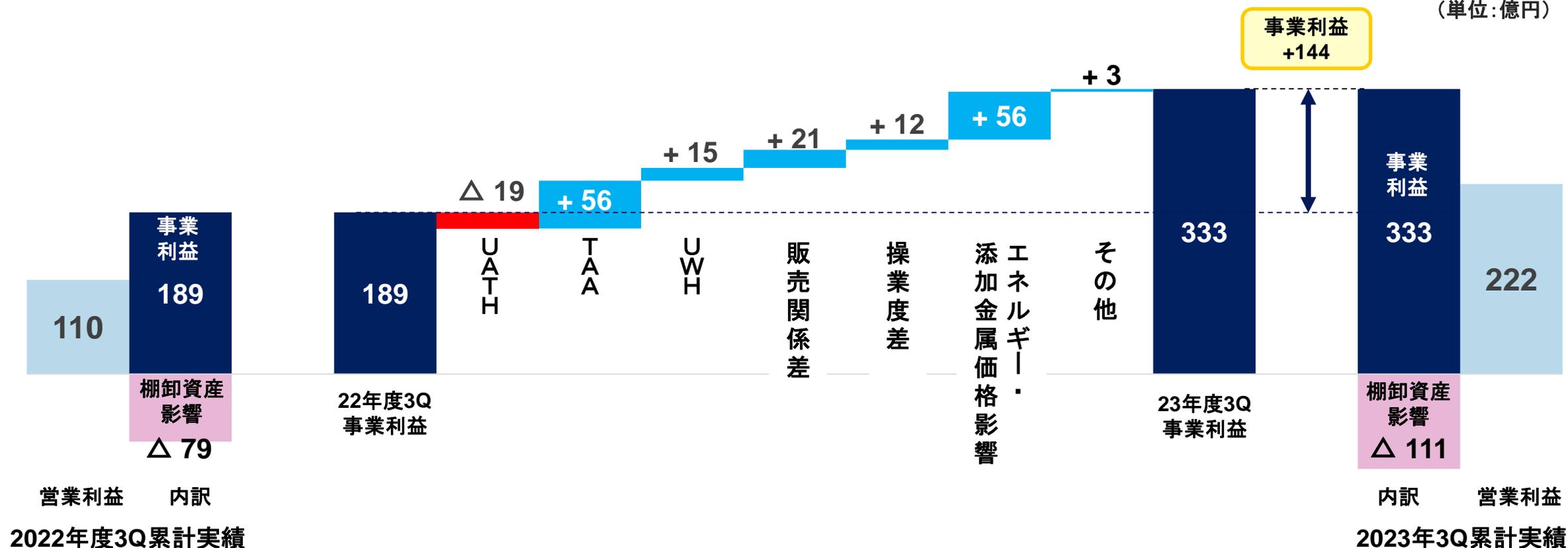
*2 内部取引控除後の数量

事業利益分析 (2022年度3Q累計 → 2023年度3Q累計)

事業利益: **189億円** (2022年度3Q累計*) → **333億円** (2023年度3Q累計)

(棚卸資産影響額: Δ 79億円(2022年度3Q) → Δ 111億円(2023年度3Q)、前年同期比 Δ 32億円)

(単位: 億円)



* 2022年度3Q累計のIFRS実績値は概算値であり、今後の四半期レビューの結果により変更する可能性があります

連結貸借対照表

期末に向けて棚卸資産削減を推進

連結貸借対照表

(単位: 億円)	23/3末* (A)	23/12末 (B)	増減額 (B-A)
現金及び現金同等	234	354	120
営業債権及びその他の債権	1,590	1,728	138
棚卸資産	2,287	2,144	△ 142
その他の流動資産	266	247	△ 19
有形固定資産	3,657	3,742	85
その他の非流動資産	924	968	44
資産合計	8,957	9,183	226
営業債務及びその他の債務	1,394	1,336	△ 58
借入金	3,404	3,497	93
その他	1,480	1,520	40
親会社の所有者に帰属する持分合計	2,465	2,605	140
非支配持分	215	225	11
負債及び資本合計	8,957	9,183	226

資金運用表

	用途	調達	
長期資金	設備投資等	268	
	法人税等支払	20	
	長期資金余剰	119	
短期資金		運転資金増減他	70
	短期資金余剰	70	

長期資金余剰	119億円
短期資金余剰	70億円
フリーキャッシュフロー	189億円

連結キャッシュフロー計算書

有利子負債残高の水準を下げ、2023年度末のD/Eレシオ目標1.2を堅持する

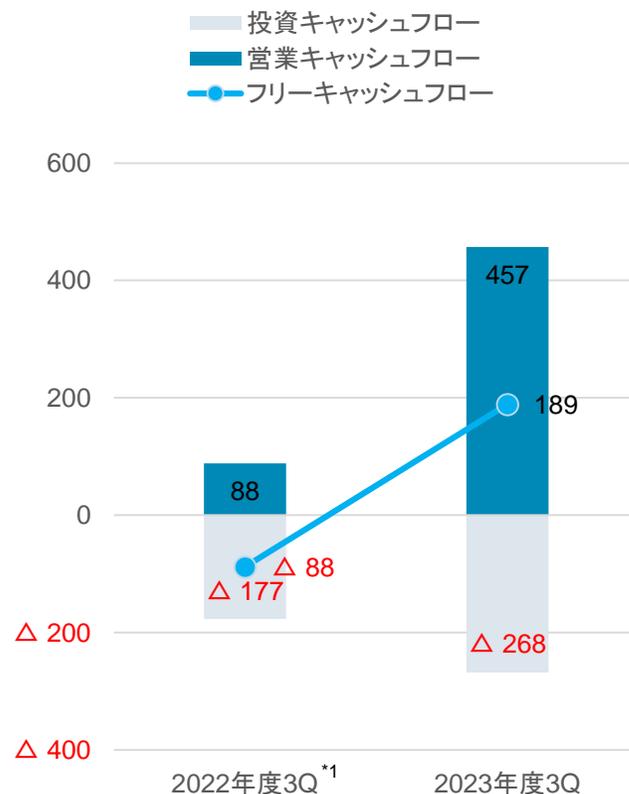
2023年度3Q 連結キャッシュフロー

(単位:億円)

税引前利益	134
減価償却費	273
債権債務増減他	50
営業キャッシュフロー計	457
設備投資 他	△ 268
フリーキャッシュフロー	189
ファイナンススキーム・配当他	△ 116
現預金増減(△は増加)	△ 121
外貨建て借入金換算差(△は増加)	△ 46
有利子負債(△は増加)	△ 93

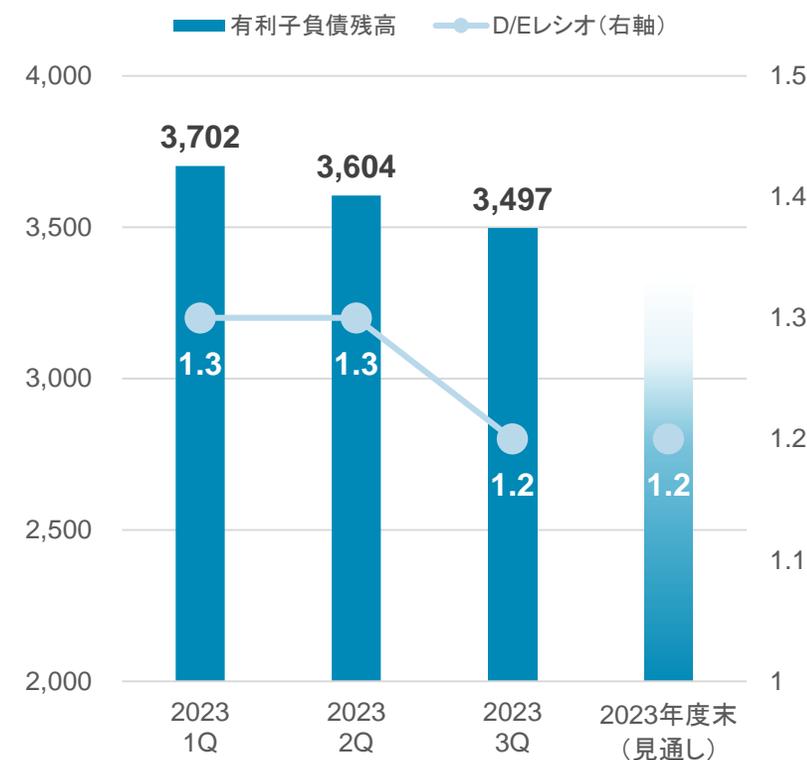
連結キャッシュフロー 推移

(単位:億円)



有利子負債残高・D/Eレシオ^{*2}

(単位:億円)



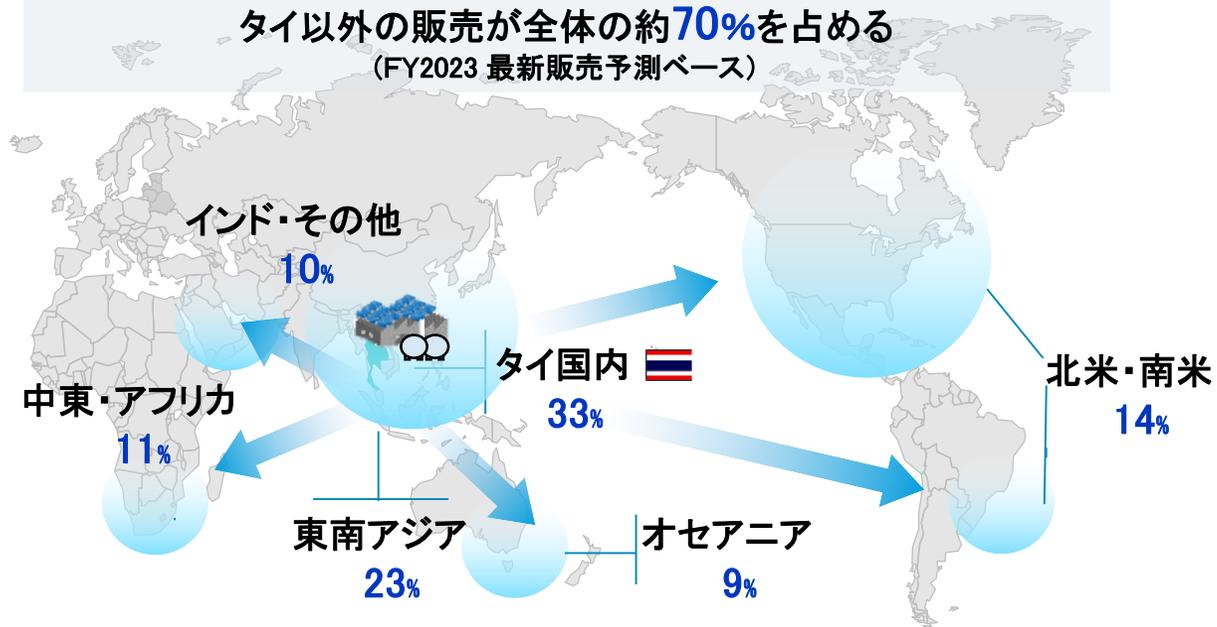
*1 2022年度3QのIFRS実績値は概算値であり、今後の四半期レビューの結果により変更する可能性があります

*2 D/Eレシオは劣後ローンの資本性を考慮

タイ(UATH)の状況 ～2023年度3Q 総括

北米・東南アジア缶材需要の落ち込みの影響が続くも、コスト削減施策強化で収益を確保

販売展開エリアの販売比率(世界25カ国)



マーケットの状況とUATHの取り組み

- 短期的な需要動向によって販売量が大幅に変動
- グローバルでの需要環境認識は変わらず、中長期的に成長継続見通し
- 新規顧客の開拓を進め、東南アジア以外での販売展開エリア拡大を図る
- ロールマージンの改定による収益の確保
- 中国材との競合に対し、安定供給と高い品質を強みとした競争力を発揮し契約を交渉

3Q総括

- 需要** : 北米・東南アジアにおける缶材需要の回復時期が遅れる
- 販売** : 自動車向け熱交換器材は堅調に推移
缶材、エアコンフィンの販売は低調に推移
- 生産量** : 23千t/月(2023年4～12月)
- 販売量** : 21千t/月(2023年4～12月)
- 損益** :

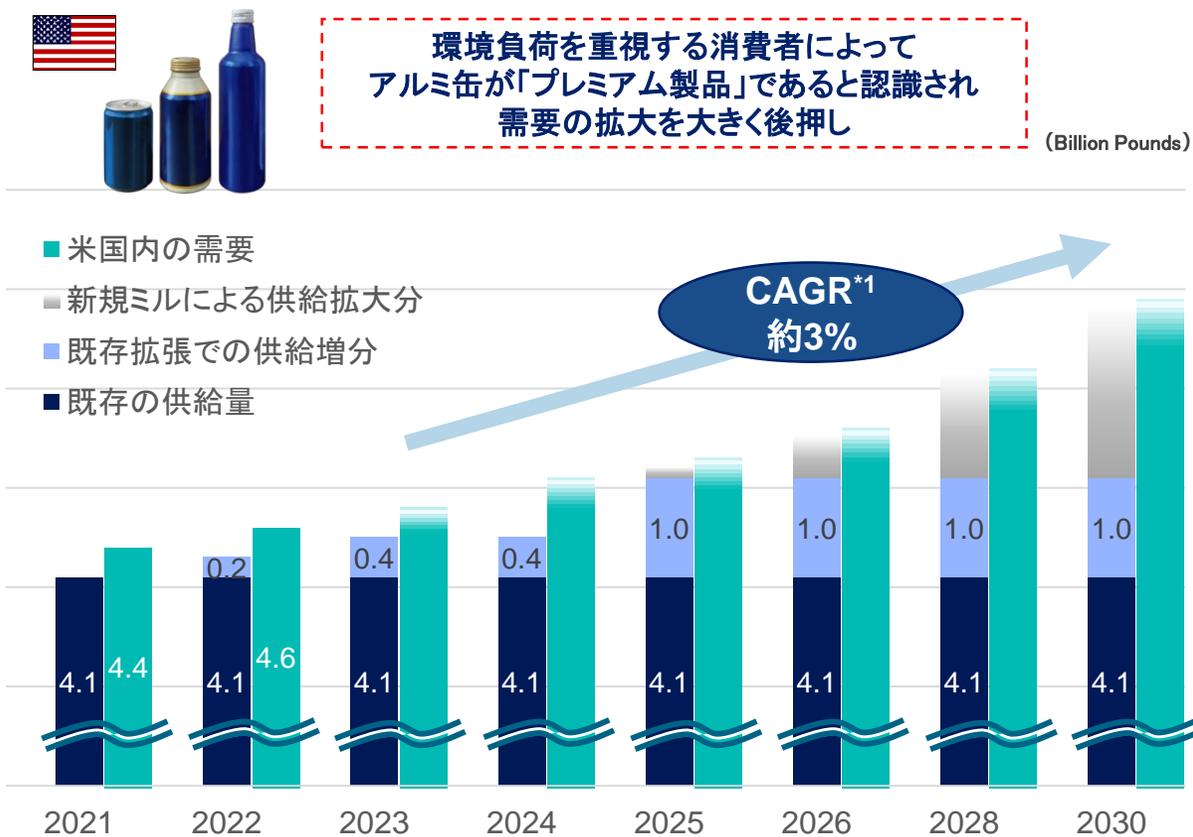
(単位: 億円)

	22年度3Q累計* (4～12月)	23年度3Q累計 (4～12月)	前年同期比
売上収益	1,468	1,058	△ 410
営業利益	△ 3	2	5
事業利益	31	12	△ 19

米国(TAA)の状況 ~2023年度3Q 総括

品種構成の改善、価格高騰分の転嫁、製造コスト削減により販売数量の減少をカバー

米国缶材需要と国内供給能力の推移



出典：UACJ調査による

*1 CAGR：複数の期間に渡る増加率を単位期間あたりの増加率で表したものの、年平均成長率

*2 2022年度3QのIFRS実績値は概算値であり、今後の四半期レビューの結果により変更する可能性があります

3Q総括

- 缶材需要：顧客での在庫調整は足元ではほぼ解消し、販売数量が徐々に回復していく見通し
- 販売量：35千t/月(2023年4~12月)
※国内・UATH出荷分含む
- 生産能力：約450千t/年体制確立
- 増産対応：北米生産拠点の設備増強は順調に進捗

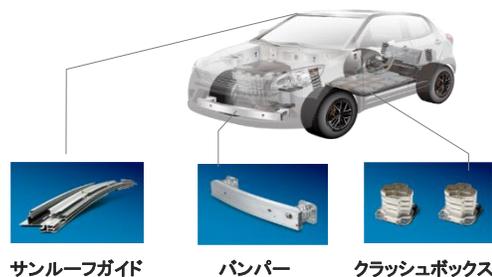
(単位:億円)

損益	22年度3Q累計*2	23年度3Q累計	前年同期比
売上収益	2,239	1,814	△ 425
営業利益	32	137	105
事業利益	150	206	56

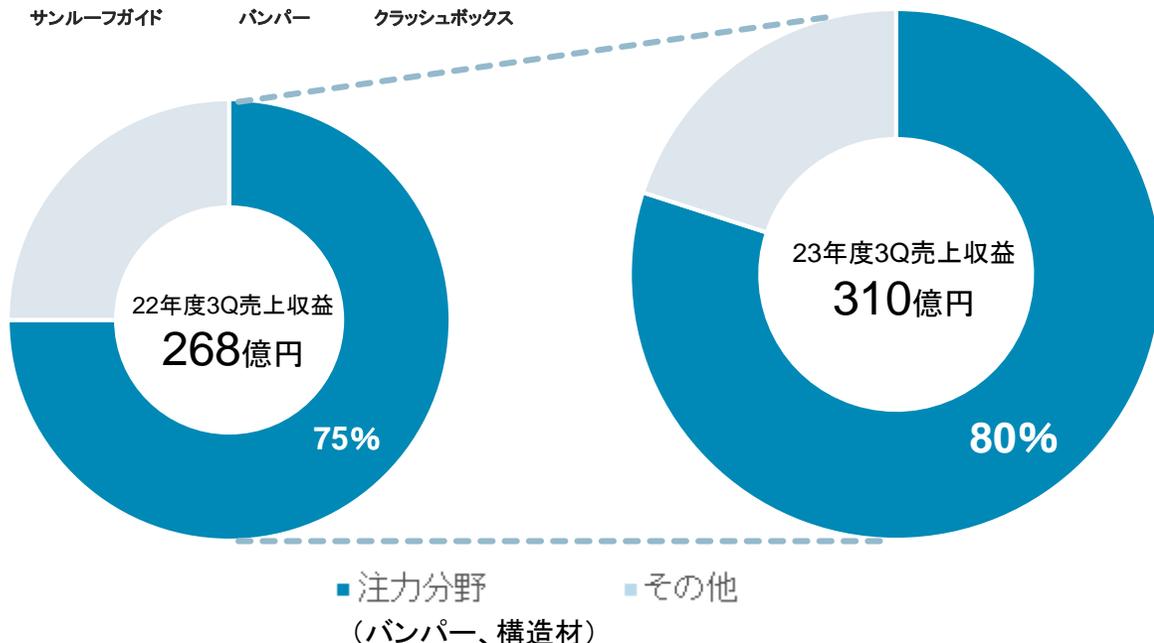
米国(UWH)の状況 ~2023年度3Q 総括

北米市場環境の復調およびコストダウン施策の結果により、増収増益傾向が継続

品種構成の推移



UWHが注力する分野の拡販が
確実に進んでいる



3Q総括

- 市場環境** : 北米市場のEV化や軽量化による、自動車部品に採用されるアルミ製品は拡大する予測
- 販売** : 顧客でのサプライチェーン問題の解消で販売が増加
 予定数量未達については顧客との交渉によって、価格を改定

損益 (単位: 億円)

	22年度3Q累計*	23年度3Q累計	前年同期比
売上収益	268	310	42
営業利益	△ 13	7	20
事業利益	△ 15	△ 0	15

* 2022年度3QのIFRS実績値は概算値であり、今後の四半期レビューの結果により変更する可能性があります

2. 2023年度 業績見通し



2023年度通期 市場環境

自動車関連分野は、日米ともにお客様の生産回復に伴い、需要の回復が続く一方で、北米・東南アジアの缶材および国内の厚板等は、需要の調整が続いており今後徐々に回復していく見通し

日本

缶材： 飲料用缶材需要は横ばいと見込むも、環境負荷低減ニーズ拡大によるアルミ化を推進
自動車： お客様の生産状況はおおむね回復し、自動車関連は増加見通し
厚板： 半導体製造装置向けの製品は需要調整が続くも、来期にかけ徐々に回復していく見通し

北米

缶材： 中長期的に缶材需要が拡大する見通しに変更はない
短期的には顧客の在庫調整、インフレ抑制等により販売減も、在庫調整はほぼ終了
需要回復は期初想定より遅延
自動車部品： 北米自動車市場は復調傾向。EV化の継続、軽量化の推進で、自動車部品に採用されるアルミニウム製品の拡大化傾向は変化なし

アジア・その他

缶材： 東南アジアのお客様の在庫調整が徐々に解消する見通し
インド、中東・アフリカの缶材需要は今後成長が見込まれる

2023年度 通期業績見通し

販売数量見通しの増加と製造コスト削減施策の結実により、事業利益見通しを上方修正

(単位:億円)	2023年度 (11月時見通し) (A)	2023年度 (最新見通し) (B)	2022年度* (実績) (C)	増減 (B) - (C)
売上収益	8,800	8,800	9,557	△ 757
事業利益	380	400	213	187
棚卸資産影響等	△ 110	△ 130	△ 100	△ 30
営業利益	270	270	113	157
親会社の所有者に帰属する 当期利益	110	110	△ 13	123
事業利益をベースとした 1株あたり当期利益 (円/株)	364	394	119	275
Adjusted EBITDA	750	770	558	212
年間配当	90円/株	90円/株	85円/株	5円/株

セグメント別 売上収益・営業利益(最新見通し)

(単位:億円)

	2023年度 (11月時見通し) (A)		2023年度 (最新見通し) (B)		2022年度* (実績) (C)		増減 (B) - (C)	
	売上収益	営業利益	売上収益	営業利益	売上収益	営業利益	売上収益	営業利益
アルミ圧延品	7,810	301	7,890	347	8,372	150	△ 482	197
加工品・関連事業	1,810	34	1,820	36	2,071	25	△ 251	11
(調整額)	△ 820	△ 65	△ 910	△ 113	△ 886	△ 62	△ 24	△ 51
合計	8,800	270	8,800	270	9,557	113	△ 757	△ 157

* 2022年度のIFRS実績値は概算値であり、今後の四半期レビューの結果により変更する可能性があります

アルミ板 品種別売上数量(最新見通し)

(単位:千トン)

品 種	2023年度 (5月時見通し) (A)	2023年度 (11月時見通し) (B)	2023年度 (最新見通し) (C)	2022年度*1 (実績) (D)	増減 (C) - (D)
缶 材*2	880	761	777	834	△ 57
箔 地	53	46	45	46	△ 1
I T 材	11	9	8	9	△ 1
自動車材	142	144	145	125	20
厚 板	47	34	34	52	△ 18
その他一般材	203	174	180	227	△ 47
合 計	1,336 国内市場向け 510 海外市場向け 826	1,168 国内市場向け 478 海外市場向け 690	1,189 国内市場向け 479 海外市場向け 710	1,293 国内市場向け 475 海外市場向け 818	△ 104 国内市場向け 4 海外市場向け △ 108

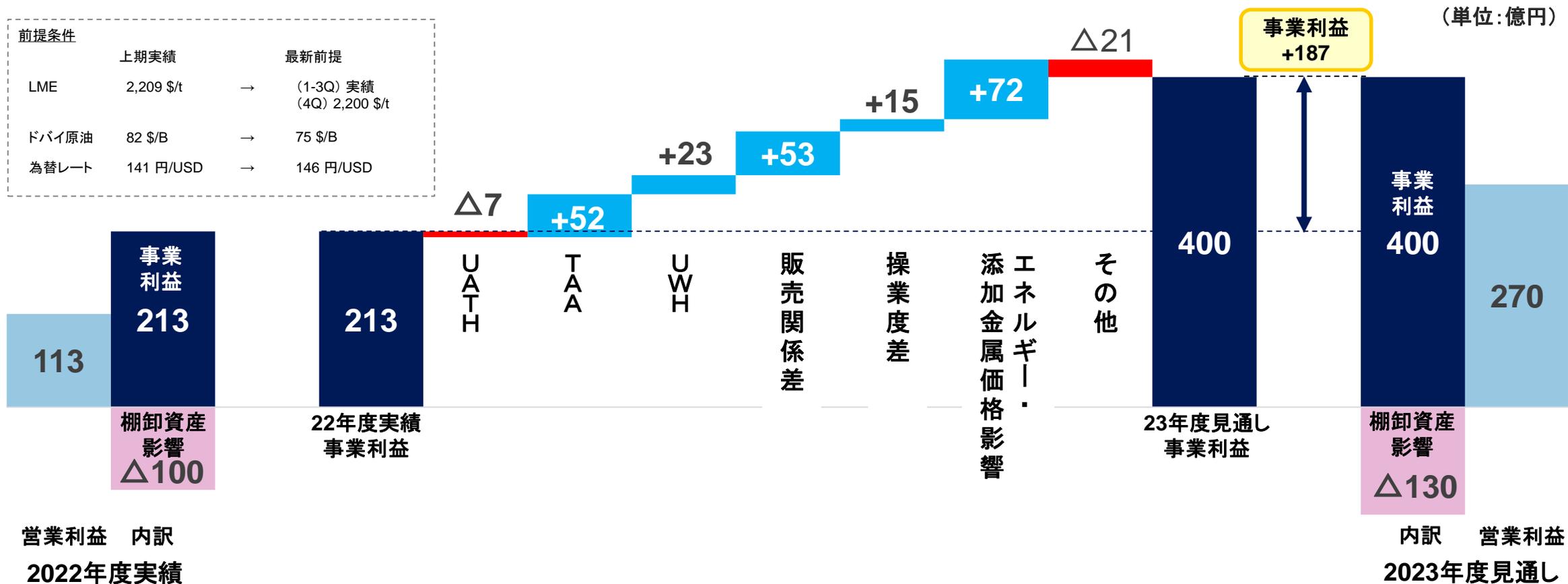
*1 会計期間の変更に伴い、実績値を組み換えています

*2 内部取引控除後の数量

事業利益分析 (2022年度 → 2023年度 最新見通し)

事業利益: **213億円** (2022年度*) → **400億円** (2023年度見通し)

(棚卸資産影響額: $\Delta 100$ 億円(2022年度) → $\Delta 130$ 億円(2023年度見通し)、前年同期比 $\Delta 30$ 億円)

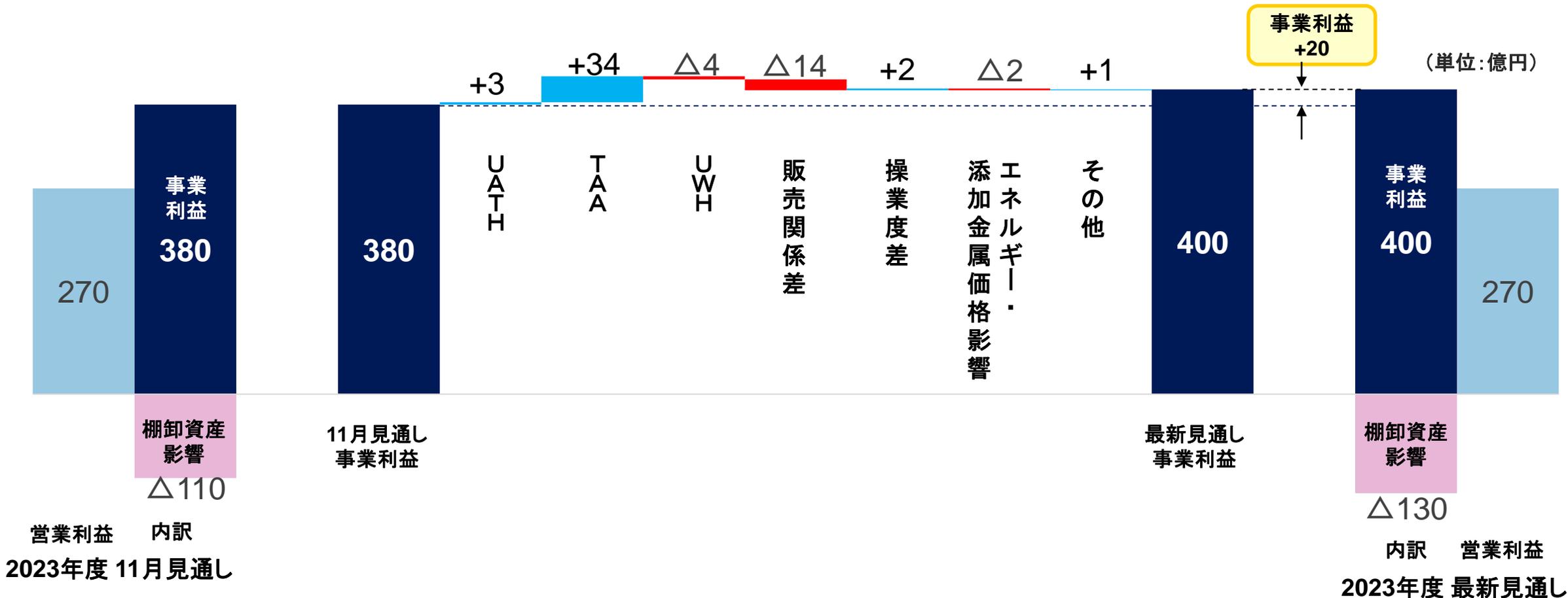


* 2022年度のIFRS実績値は概算値であり、今後の四半期レビューの結果により変更する可能性があります

事業利益分析 (2023年11月見通し → 2023年度 最新見通し)

事業利益: **380億円** (2023年11月見通し) → **400億円** (2023年度最新見通し)

(棚卸資産影響額: $\Delta 110$ 億円(2023年11月見通し) → $\Delta 130$ 億円(2023年度最新見通し))



設備投資・減価償却費

設備投資額は減価償却の範囲内を堅持

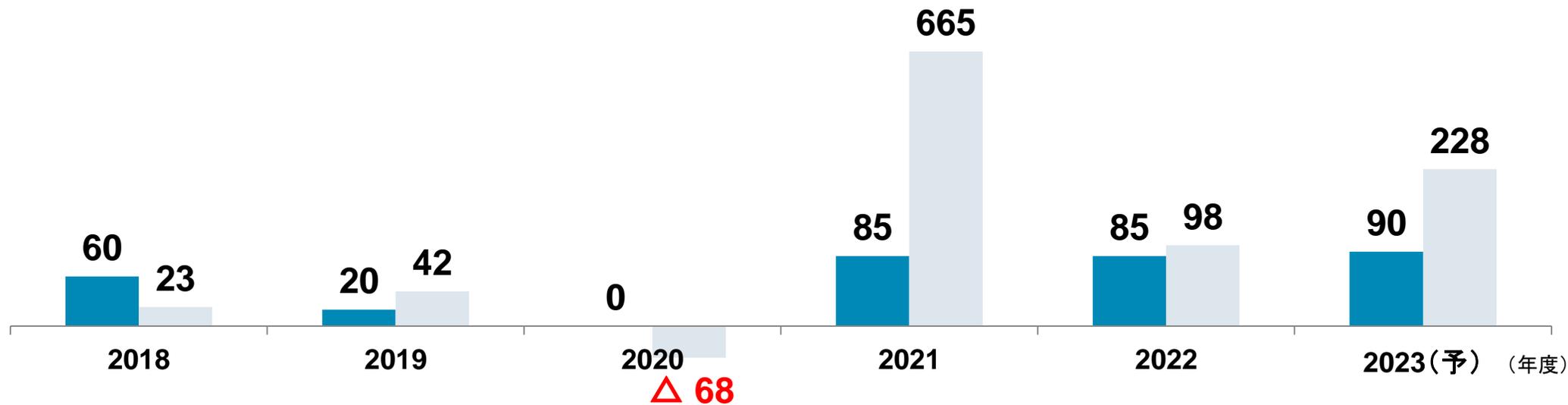
(単位:億円)		2021年度 (A)	2022年度 (B)	2023年度 3Q累計	2023年度 見通し (C)	中計期間計 (見通し) (A)+(B)+(C)
設備投資	一般投資	128	210	138	230	568
	戦略投資	79	54	78	140	273
	合計	207	264	216	370	841
減価償却費		340	373	273	370	1083

株主還元

事業利益の向上により、年間配当は90円に

- 還元方針 : 長期的な総還元性向は30%以上を目標とする
- 配当 : 連結配当性向20~30%を目途に、安定的かつ継続的な配当を目指す
- 株式価値の向上 : 確実な利益・キャッシュフローの確保、資本市場との対話で価値向上を目指す

1株当たり配当 / 1株当たり当期純利益(円)



3. 企業価値向上に向けた 資本効率経営の取り組み



企業価値向上の実現に向けた、資本効率を指標とする経営

2023年度の目標を確実に達成し、VISION2030への道筋をつくる

第3次中期経営計画の財務指標として ROE、ROIC、D/Eレシオを設定

- ⇒ ・2023年度は、第3次中期経営計画最終年度として、確実に財務指標を達成するべく利益を着実に積み上げる施策を実行する。
 ・資本市場との対話を引き続き積極的に実施し、資本市場のニーズを経営に反映する。

長期経営ビジョン UACJ VISION 2030 の財務指標として ROE、ROICを設定

- ① 株主資本コストの引き下げ、② 期待成長率の向上、③ 株主・投資家との積極的なコミュニケーションの継続

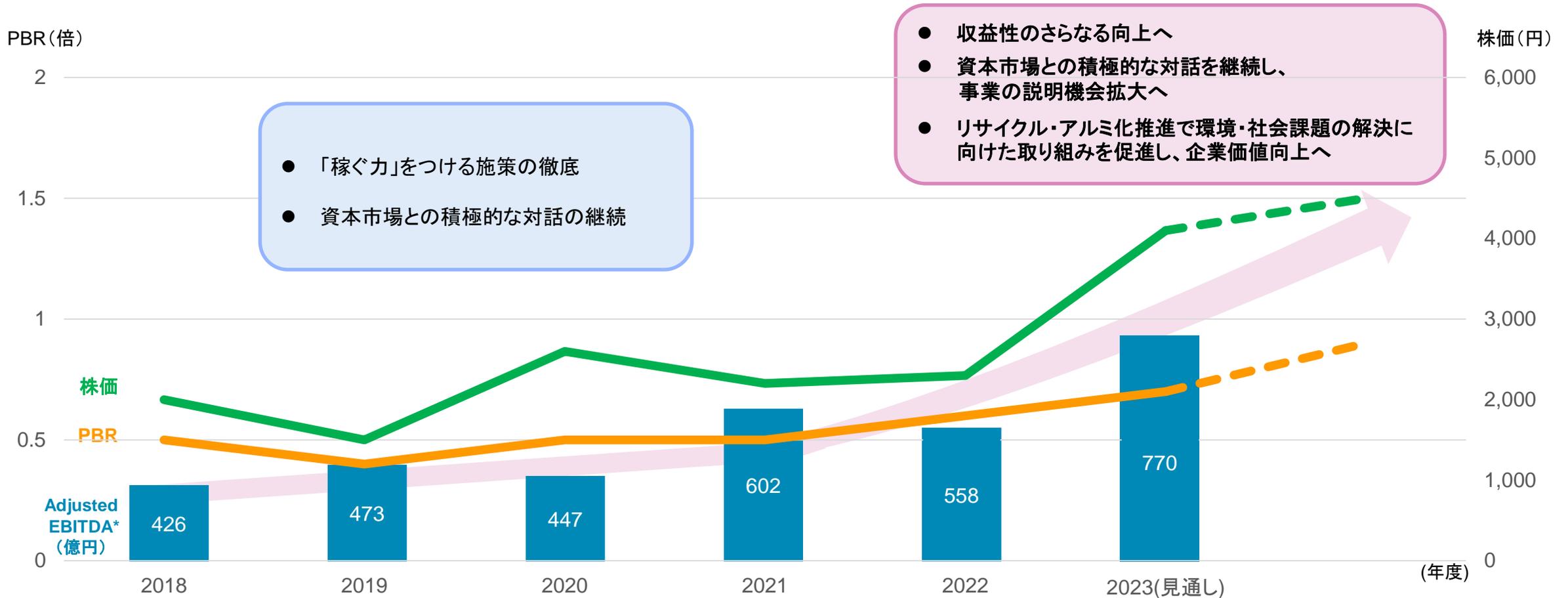
- ⇒ 2030年の目標を確実に達成するべく、第4次中期経営計画(5/13公表予定)で具体的な施策を織り込む。

財務指標 KPI

	第3次中計期間						
	FY2018	FY2019	FY2020	FY2021	FY2022	FY2023 ^{*3} (見通し)	FY2030(目標)
ROE	0.6%	1.1%	-1.8%	15.6%	2.0%	4.3%	10.0%
ROIC ^{*1}	2.8%	1.9%	2.2%	11.1%	3.0%	4.5%	10.0%
D/Eレシオ ^{*2}	1.7	1.6	1.6	1.4	1.3	1.2	—

*1 ROIC：税引前営業利益を基に算出 *2 D/Eレシオ：劣後ローンの資本性考慮後 *3 FY2023はIFRS基準での算出

企業価値向上の実現に向けた、資本効率を指標とする経営



- 「稼ぐ力」をつける施策の徹底
- 資本市場との積極的な対話の継続

- 収益性のさらなる向上へ
- 資本市場との積極的な対話を継続し、事業の説明機会拡大へ
- リサイクル・アルミ化推進で環境・社会課題の解決に向けた取り組みを促進し、企業価値向上へ

- 持続的な企業価値の向上
- 財務基盤を強化し、事業環境の変化に対する即応力の向上

* 2018～2021年度は日本会計基準、2022年度はIFRSの概算値、2023年度はIFRSでの見通しの値

4. サステナビリティへの取り組み



企業理念とサステナビリティ基本方針

UACJグループ理念

素材の力を引き出す技術で、持続可能で豊かな社会の実現に貢献する。



企業理念

素材の力を引き出す技術で、持続可能で豊かな社会の実現に貢献する。

目指す姿

アルミニウムを究めて環境負荷を減らし、軽やかな世界へ。

価値観

- ▶ 相互の理解と尊重
- ▶ 誠実さと未来志向
- ▶ 好奇心と挑戦心

サステナビリティ基本方針

「100年後の軽やかな世界のために」

「第8回ドリンク ジャパン」へ参加

外部イベントに参加し、アルミ化の推進・リサイクルの有用性をPR

「第8回ドリンク ジャパン」での講演



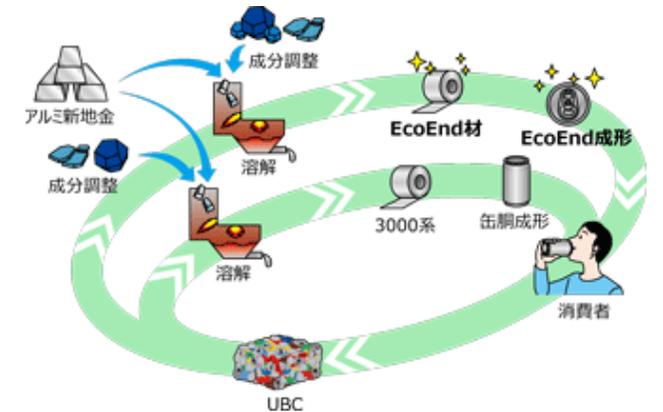
「サステナブル実現に向けた容器新時代」のセミナーで講演。

「アルミでかなえる軽やかな世界

～飲料容器の持続可能性への挑戦～」と題し、

飲料バリューチェーンの持続可能性をさらに高めるため、アルミ缶の有用性、リサイクルによる環境負荷低減効果に言及しUACJの取り組みを紹介した。

次世代飲料蓋「EcoEnd™」



「EcoEnd™」が提案する新しい循環フロー

東洋製罐様と共同開発した新製品「EcoEnd™」は、環境負荷を低減した次世代の飲料缶蓋であり、リサイクル原料の使用率を高めることで、GHG排出量を4割削減する。

これからも、「アルミ缶水平リサイクルのさらなる促進」と、「飲料容器サプライチェーン全体のGHG排出量の削減」を目指し、活動に取り組んでいく。

環境総合展「エコプロ2023」へ参加

環境意識の高い次世代人材に、アルミニウムとその環境価値をPR

環境総合展「エコプロ2023」



- ✓ 小中学生をはじめとする、環境意識の高い次世代人材に、アルミニウムとその環境価値をPR
- ✓ 持続可能な社会に向けた当社の取り組みや、アルミ製品を幅広く展示。
- ✓ アルミニウムの特性を分かりやすく伝えるために、実際に見て触って体感してもらえるコーナーやプレゼンテーションを実施
- ✓ アルミニウムの軽量性や無限にリサイクルできる特性を生かして環境負荷低減に貢献する製品事例、カーボンニュートラル実現に向けた取り組みや、社会貢献活動などを紹介した。

UACJ社歌「つづけ」～日経社歌コンテスト 2024「チームワーク賞」受賞

グループ理念を体現した歌詞・楽曲を社内から公募して制作し、グループの一体感を醸成

つづけ

青も黄色も いろいろな色が
混ざるから楽しくて 強くもなる

丸や四角や 好きな言葉で
話してもいいんだよ 君はどうだい

変わらぬ力と 変えてく勇気を
心にたずさえ 歩いて行こう

ずっとこの空つづけ いつまでも
子どもたちになにを 残せるの
この海つづけ きっとつづけ
あしたの風はいま ここから吹く

作詞／作曲：西野寛和・KOROTAN
編曲：柿崎洋一郎

右か左か 迷ったときは
幸せの意味だけを さがしてみる

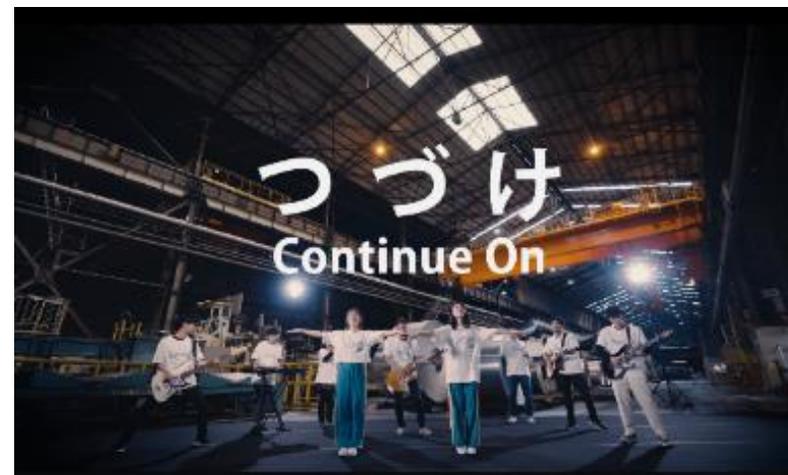
西へ東へ がんばっただけ
優しさもにじむはず 虹を見たかい

伝える思いと 伝わる重さを
まっすぐ信じて 挑んでみよう

きっとこの夢つなげ どこまでも
未来なんて今日が つくるのさ
この愛つなげ もっとつなげ
いくつも星がまた 生まれている

Aluminum lightens the world
Aluminum is our passion

ずっとこの空つづけ いつまでも
子どもたちになにを 残せるの
この海つづけ きっとつづけ
あしたの風はいま ここから吹く



グループ理念を「歌詞」の形で表現

世界6カ国、150名がダンスに参加

東京ヤクルトスワローズとのトップスポンサー契約で、知名度・ブランド価値を向上

アルミニウムの“ファン”を増やし、人的資本等の強化へ



2024年1月31日新ユニホーム着用写真

(左から山田哲人選手、中村悠平捕手、清水昇投手)

当社は、プロ野球球団東京ヤクルトスワローズとトップスポンサー契約を結び、3月29日(金)に開幕する今シーズンからホーム試合用ユニホームの右肩に企業ロゴを掲示することになりました

UACJは今後も引き続き、知名度・ブランド価値の向上に努め、アルミニウムの”ファン”を増やして人的資本の強化をはじめ、企業価値向上につながるべく広報活動を積極的に展開してまいります。

次世代教育支援の活動事例紹介

対面での次世代教育支援活動を再開し、地域活性化に貢献

環境教育プロジェクト「地球教室」に協賛



朝日新聞社主催の小学生向け環境教育プロジェクト「地球教室」に協賛プロジェクト全体のサポートとして、環境教育用テキストへの編集協力を継続実施しているほか、11月7日（佐渡）と12月14日（渋川）に、「地球にやさしいアルミニウム」と題して当社従業員を講師とした出張授業を開催。90%以上と高いリサイクル率を誇るアルミ缶のリサイクルや、軽くて強いという特長を生かして自動車の軽量化に貢献するアルミニウムについて紹介した。

野球教室の開催



2023年11月12日、福井県坂井市にて「UACJ野球教室」を開催。将来を担う子どもたちにスポーツの楽しさや魅力を伝え、スポーツを通じた地域における次世代育成を目指すもので、3回目の開催。当日は、121名の小学生が参加し、当社がオフィシャルスポンサーを務める東京ヤクルトスワローズ所属の中村悠平選手や、東京ヤクルトスワローズOBの内藤尚行さん（通称ギャオス内藤さん）、宇佐美康広さんが指導にあたった。

5月13日(月)

2023年度本決算 発表、同説明会 開催 (ZOOM開催予定)
第4次中期経営計画 公表

5月28日(火)

IR-Day (第4次中期経営計画説明会) 開催 (開催形式未定)

各説明会の詳細につきましては、あらためてご案内を申し上げます

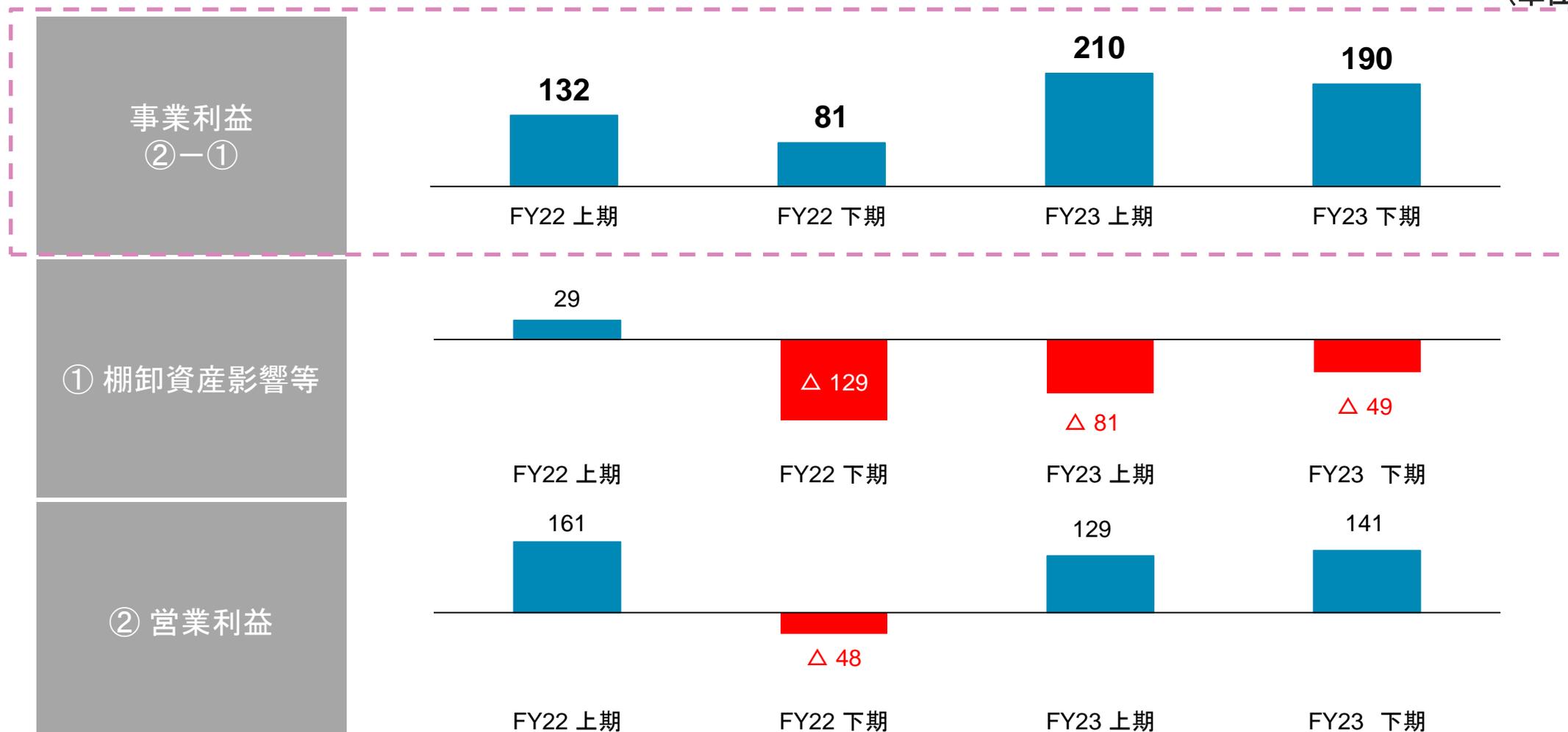
5. ご参考データ



事業利益の定義

「事業利益」は当社の実力ベースの損益で、営業利益から棚卸資産影響等を引いた損益
FY23 1Qまで「棚卸資産影響前営業利益」として示していたものと同義

(単位:億円)



3Q累計 業績【日本基準】

(単位:億円)

	2022年度 3Q累計 (A)	2023年度 3Q累計*3 (B)	増 減 (B) - (A)
連結売上高	7,408	6,603	△ 805
連結営業利益	113	174	61
棚卸資産影響前 連結経常利益	120	220	99
棚卸資産影響額	△ 79	△ 111	△ 32
連結経常利益	41	109	67
連結当期純利益*1	△ 6	55	61
Adjusted EBITDA*2	481	586	105

*1 連結当期純利益: 親会社株主に帰属する当期純利益

*2 Adjusted EBITDA: EBITDA - 棚卸資産影響

*3 2023年度3Qの日本基準実績値は概算値です

セグメント別 売上高・営業利益【日本基準】

(単位:億円)

	2022年度 3Q累計 (A)		2023年度 3Q累計* (B)		増 減 (B) - (A)	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
アルミ圧延品	6,526	155	5,696	235	△ 830	80
加工品・関連事業	1,556	3	1,580	23	24	20
(調 整 額)	△ 675	△ 45	△ 673	△ 84	2	△ 39
合 計	7,408	113	6,603	174	△ 805	61

IFRSの適用について

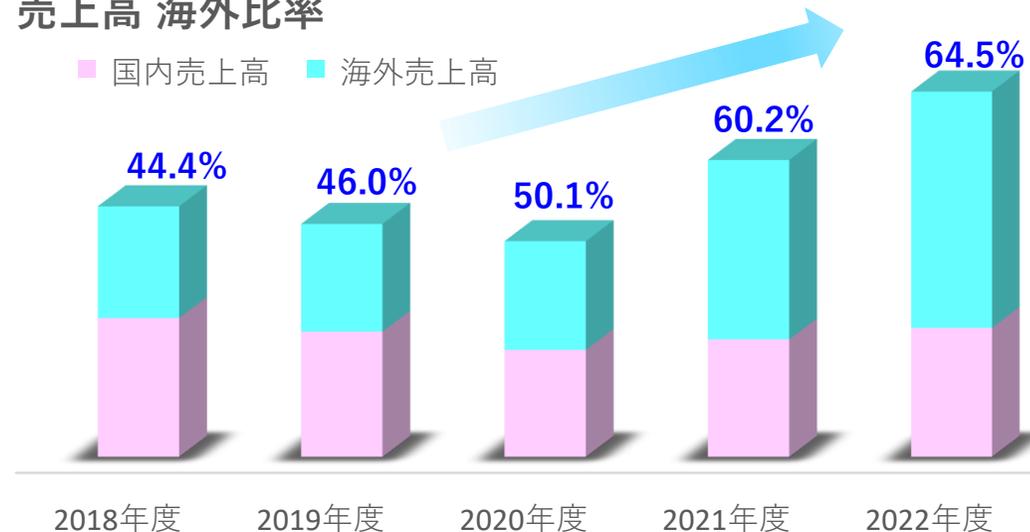
事業活動のグローバル化に対応し、会計基準にIFRS適用

当社グループの売上高・投下資本等に占める海外比率は毎年増加しており、
今後、更に増加していく見込み

- ➡ **グローバルな企業活動の更なる拡大を念頭に、会計面・情報開示面の体制を整備**
- ➡ **IFRSを適用することにより、より多くの投資家の方に当社の理解を深めていただきたい**

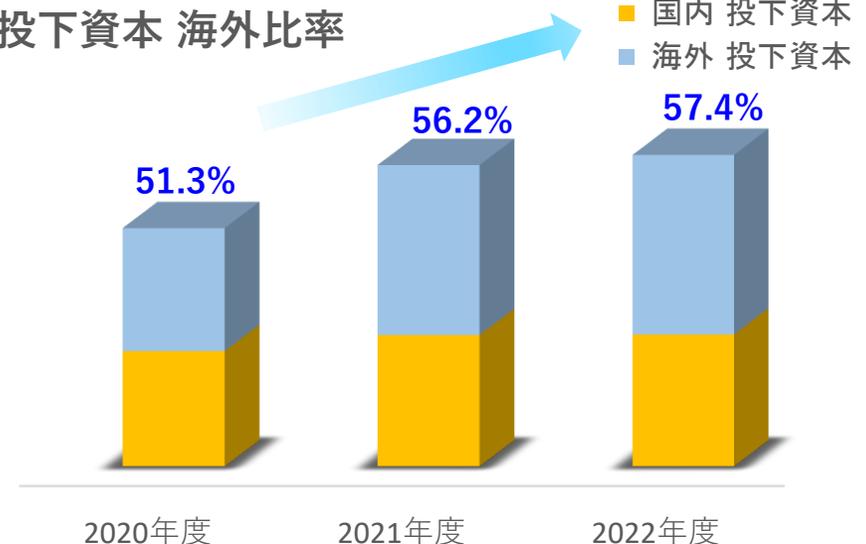
売上高 海外比率

■ 国内売上高 ■ 海外売上高



投下資本 海外比率

■ 国内投下資本 ■ 海外投下資本

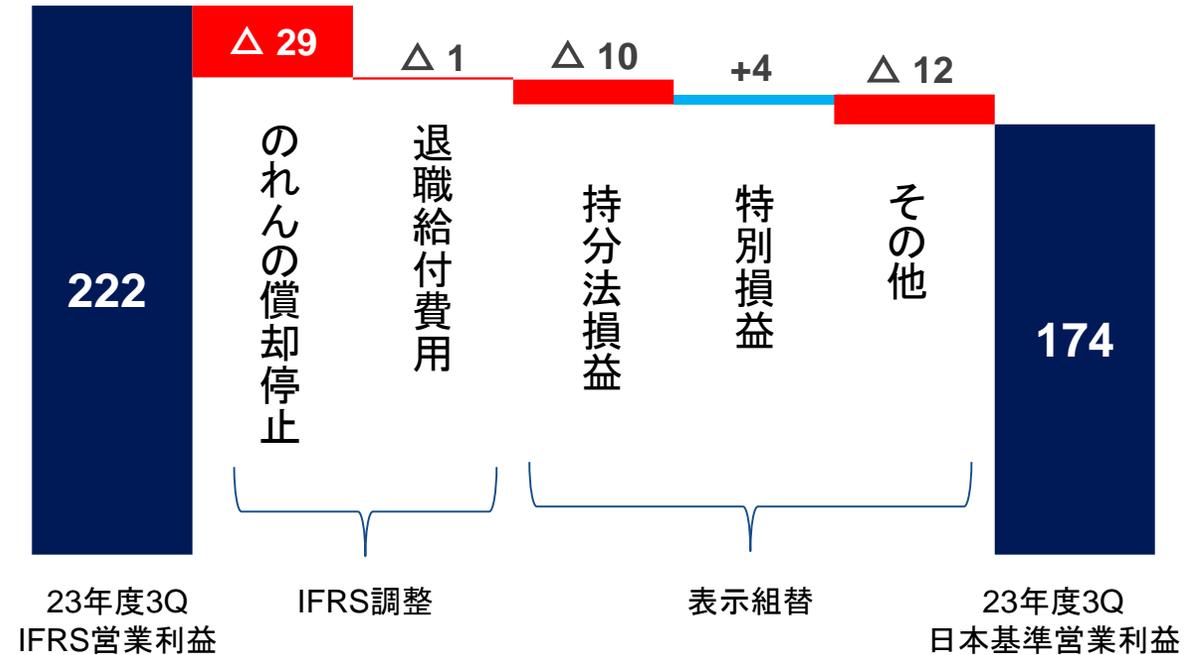


日本基準とIFRSの業績指標比較と変化分析

2023年度3Q累計実績比較(億円)

IFRS		日本基準*	
売上収益	6,603	売上高	6,603
営業利益	222	営業利益	174
-		経常利益	109
事業利益	333	棚卸資産影響前 経常利益	220
棚卸資産影響	△ 111	棚卸資産影響	△ 111
最終利益	68	最終利益	55

IFRS適用に伴う営業利益の変化



✓ IFRS適用に伴い業績管理の指標として**営業利益**を使用

✓ 営業利益でIFRS適用により以下の調整が生じた

- のれんの償却停止
- 持分法損益
- 特別損益
- 営業外損益(金融収益費用除く)
- その他

諸元と感応度

	2021年度 (3月末)	2022年度 (3月末)	2023年度 (2023年12月末)	営業利益への 感応度
アルミ地金 日経平均 (円/kg)	378	408	395	10円/kg上昇した場合 → +20~30億円/年
LME (米\$)	2,796	2,490	2,190	\$100/t上昇した場合 → +22~35億円/年
為替 (円/米\$)	112	136	148	・燃料単価、添加金属:円高が有利 ・ロールマージン、為替換算差:円安 が有利
為替 (円/タイバーツ)	3.4	3.8	4.1	
原油 (ドバイ:米\$)	78	92	84	10ドル上昇した場合 → Δ10~15億円/年

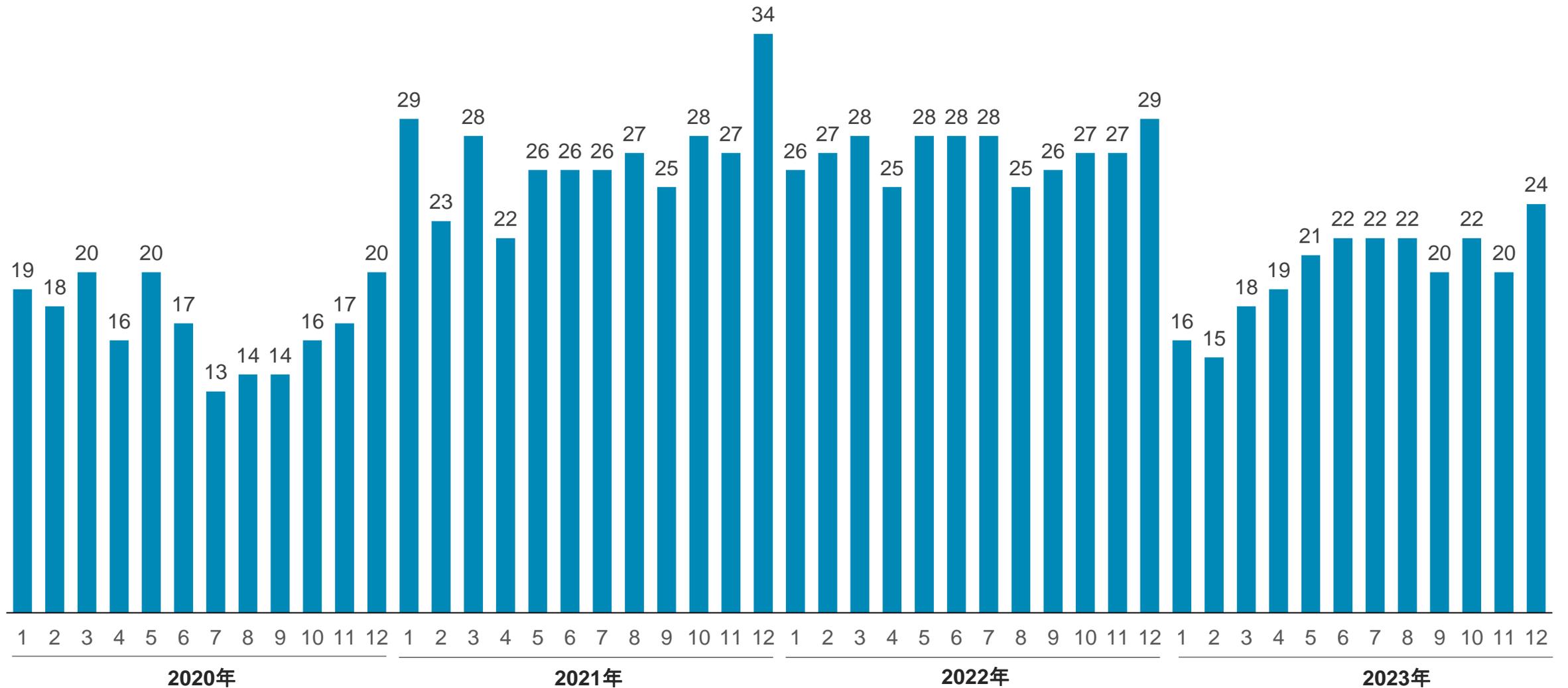
5. ご参考

主要指標推移

	日 本 会 計 基 準				I F R S					(単位:億円)
	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度 1Q(単)	2023年度 2Q(単)	2023年度 3Q(単)	2023年度 3Q累計	2023年度 (見通し)	
連 結 売 上 高	6,152	5,698	7,829	9,629	2,111	2,238	2,254	6,603	8,800	
連 結 営 業 利 益	101	111	595	172	82	47	93	222	270	
事 業 利 益	-	-	-	-	110	100	123	333	400	
棚 卸 資 産 影 響 前 連 結 経 常 利 益	98	62	213	161	-	-	-	-	-	
連 結 経 常 利 益	38	60	523	87	-	-	-	-	-	
親 会 社 株 主 に 帰 属 す る 当 期 純 利 益	20	△33	321	47	29	16	23	68	110	
設 備 一 般 投 資	143	109	129	210	32	52	54	138	-	
投 資 戦 略 投 資	347	72	79	54	23	21	34	78	-	
合 計	489	181	207	264	55	73	88	216	-	
減 価 償 却 費	312	334	340	373	90	90	76	256	-	
有 利 子 負 債 残 高	3,440	3,358	3,394	3,367	3,702	3,604	3,497	3,497	-	
R O E (%)	1.1	△1.8	15.6	1.9	-	-	-	-	-	
R O I C (%)	1.9	2.2	11.1	3.0	-	-	-	-	-	
D / E レ シ オ (倍)	1.56	1.56	1.36	1.25	1.3	1.3	1.2	1.2	-	
営 業 キャ ッ シ ュ フ ロ ー	581	386	78	526	△ 23	246	457	457	-	
投 資 キャ ッ シ ュ フ ロ ー	△ 300	△ 210	△ 210	△ 269	△ 88	△ 192	△ 268	△ 268	-	
フ リ ー キャ ッ シ ュ フ ロ ー	281	177	△ 132	257	△ 111	54	189	189	-	
株 主 資 本 (日 本 基 準)	1,827	1,775	2,090	2,096	2,083	2,088	2,078	2,078	-	

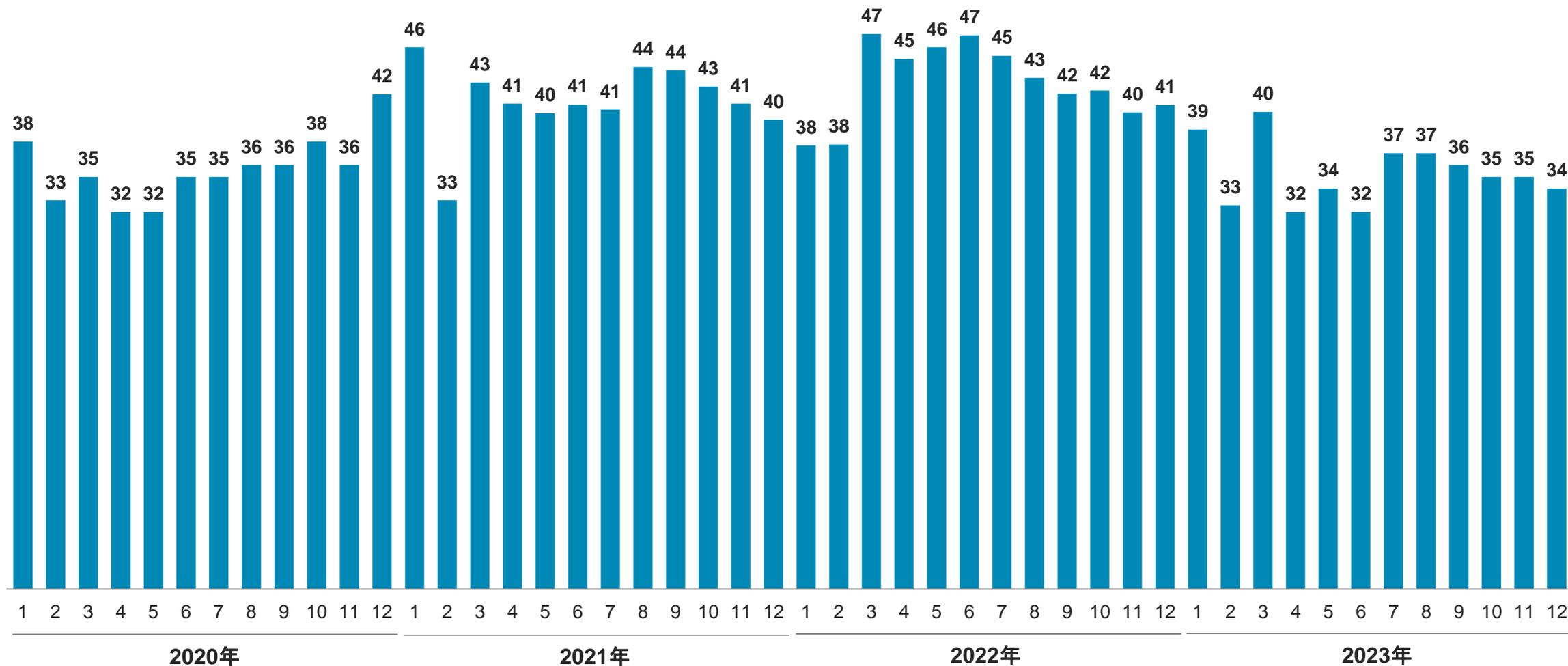
UATH 月次販売量推移

(単位：千t)

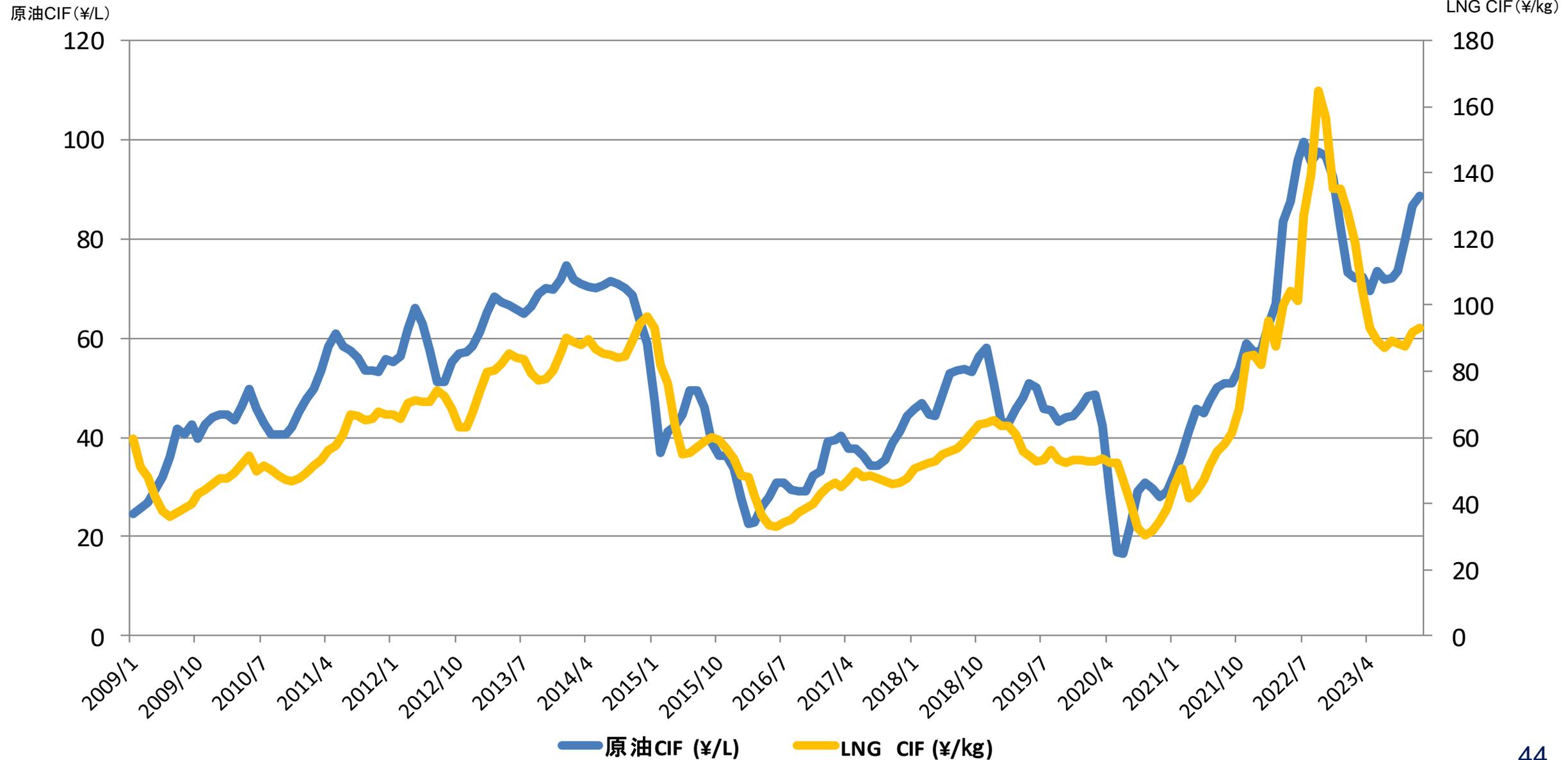


TAA 月次販売量推移

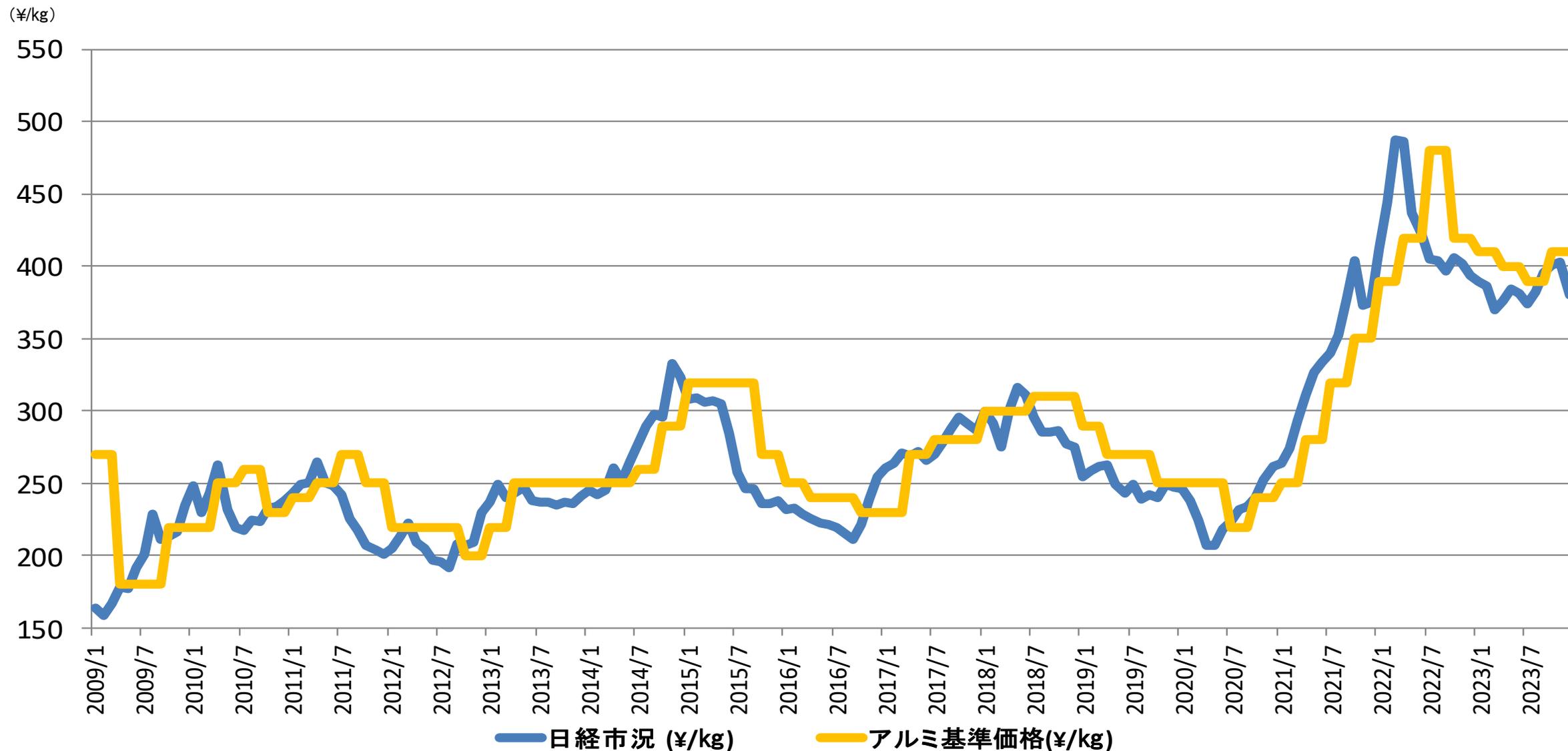
(単位：千t)



燃料単価推移



アルミ地金日経平均・アルミ基準地金



棚卸資産影響

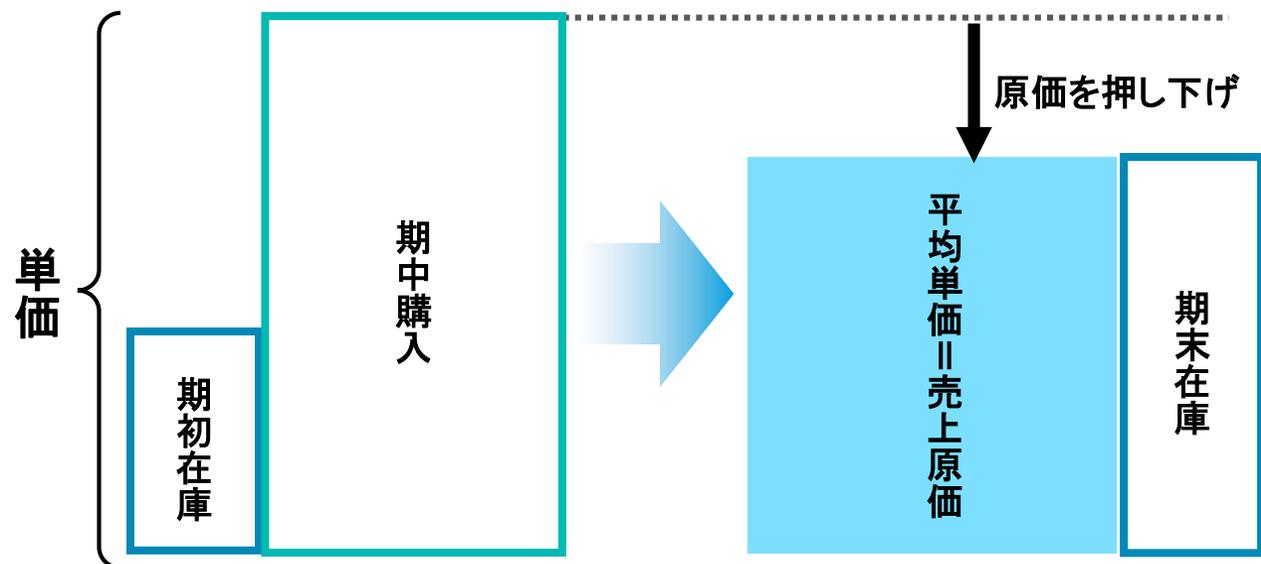
アルミ圧延事業における棚卸資産影響

- ① 平均法による材料費計算
期首在庫と期中購入アルミ地金の加重平均で、材料費を計算(期首在庫が影響)
- ② アルミ地金価格変動による販売価格反映への時間的差

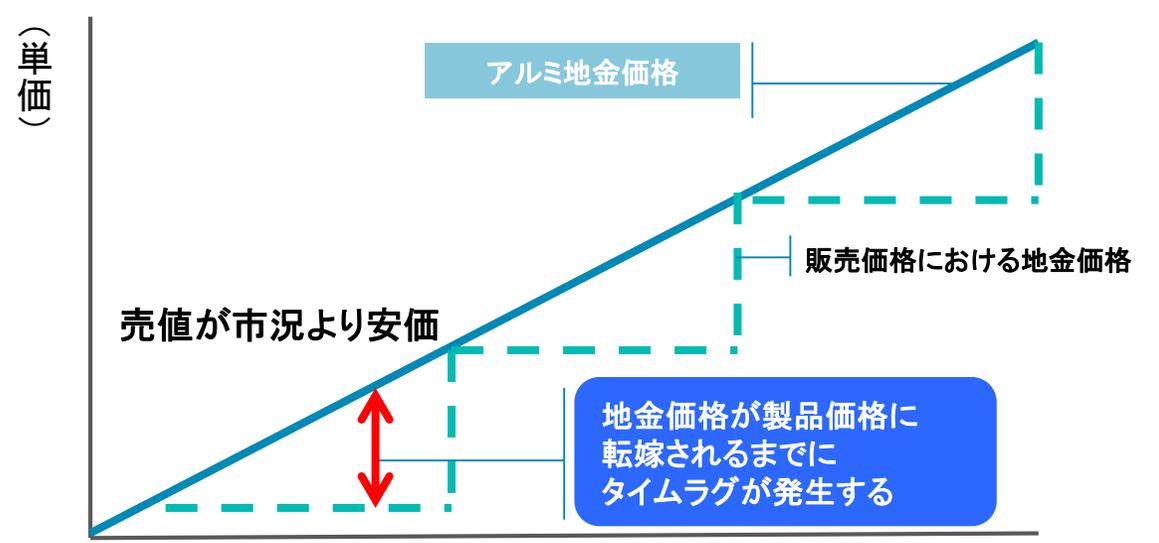
①+ ②= 棚卸資産影響

【アルミ地金価格上昇】

① 平均法による材料費計算



② アルミ地金価格変動による販売価格反映への時間的差



外部環境の変化と対応について

収益の安定化に向け、外部事業環境の変化に強い価格スキームを確立

	国内 	TAA(米国) 	UATH(タイ) 
アルミニウム地金価格の上昇	販売価格に転嫁		
エネルギー価格の高騰	販売価格への転嫁は 予定通り導入済み 電力費用の追加負担分については引き続き検討	販売価格への転嫁を実施 (市場価格連動の 価格スキームを 導入済)	契約更新(新規含む) 市場価格連動の 価格スキームを 導入済 既存契約期間中の見直し 一部のお客様と エネルギー価格高騰分 の転嫁を合意
添加金属価格の高騰	添加金属を多く含む製品について、市場価格に連動した価格スキームを 導入済		
物流費の上昇	—		販売価格への転嫁を実施 (フォーミュラ制を 導入済)

5. ご参考

アルミ圧延事業の産業構造について(投資とリターンの関係性)

生産立上げから量産、投資の回収まで5年以上要する中、19年度より投資回収フェーズへ



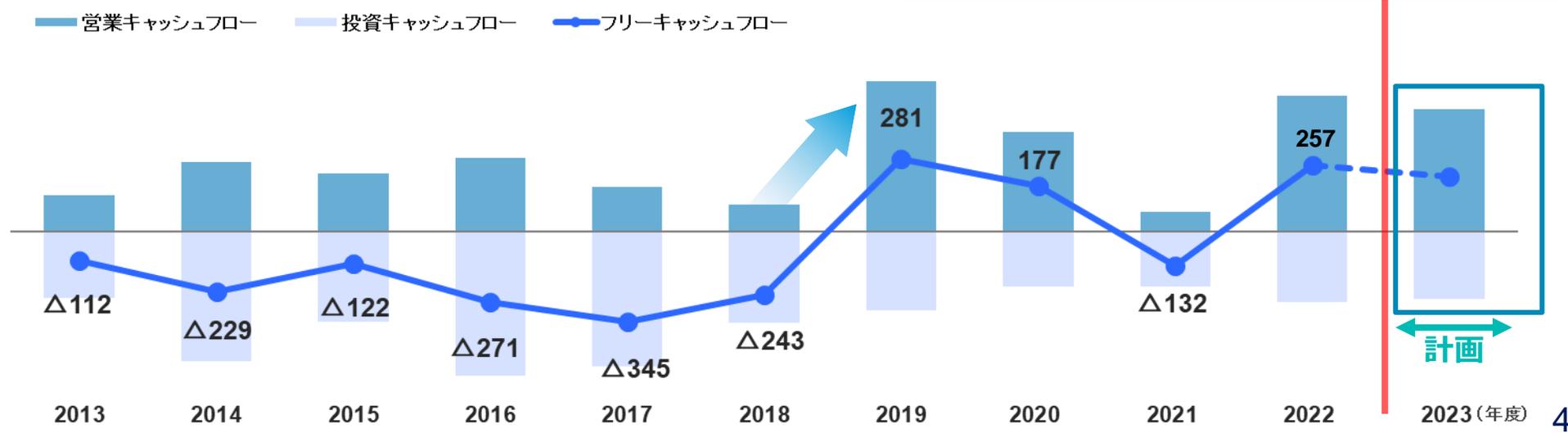
主な戦略投資/投融資

UATH (タイ)	985億円
TAA (米)	490億円
UWH (米)	205億円
福井	160億円



連結キャッシュフロー

2013-2022年度 実績
2023年度 計画



将来情報についての注意事項

この資料に記載されております売上高及び利益等の計画のうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、当社グループの各事業に関する業界の動向についての見通しを含む経済状況ならびに為替レートの変動その他の業績に影響を与える要因について、現時点で入手可能な情報をもとにした当社グループの仮定及び判断に基づく見通しを前提としております。

これら将来予想に関する記述は、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しており、実際の売上高及び利益等と、この資料に記載されております計画とは、今後さまざまな要因によりこれらの業績見通しとは大きく異なる場合があります、確約や保証を与えるものではないことをご承知おきください。

また、本資料は投資勧誘の目的のための資料ではありません。

著作権等について

この資料のいかなる部分についてもその著作権その他一切の権利は、株式会社UACJに帰属しており、あらゆる方法を問わず、無断で複製または転用することを禁止します。

本資料並びにIR関係のお問い合わせにつきましては、下記までお願いいたします。

財務本部 IR部

web-contact-ir@ml.uacj.co.jp

<http://www.uacj.co.jp>

(東証プライム 証券コード : 5741)



Aluminum lightens the world

アルミでかなえる、軽やかな世界